

(別紙様式)
平成30年度 学校自己評価システムシート (県立羽生実業高等学校)

(A3判横)

目指す学校像 **社会に有為な産業人を育成する**

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校
 評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏

重点目標	1	わかる授業、伸ばす授業の実践と進路の実現を図る
	2	地域に貢献する開かれた学校づくりを推進する
	3	生徒指導を徹底し生徒のマナーアップを図る

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	本校には、多様な学力、進路希望の生徒が入学している。そのため、生徒の実態を把握し、生徒全員に基礎学力や主体的な学びの定着を図る「授業改善」、「資格取得」に積極的に取り組む必要がある。 また、生徒、保護者の進路実現に対する期待は大きい。組織的、計画的な進路指導により、高い進路実現に結びついている。生徒の意欲を高め、進路希望に応えるために、指導内容を充実させる必要がある。	学力向上に向けた授業改善、資格取得の推進	①生徒、教員双方による授業評価を実施し、生徒のニーズに応じて授業を改善する。 ②基礎力診断テストを実施し、さらなる授業、教材の工夫をする。また、授業での小テスト等を実施し、基礎学力の育成を進める。 ③資格取得者数増加に向けた補習等の効果的な取組を推進する。	①授業アンケートの生徒・保護者満足度、生徒の学習意欲の向上。 ②各教科で小テスト等を実施することができたか。 ③埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)者数の10%増加。	授業改善、資格取得を推進し、生徒の学力向上を進めることができた。 ①授業アンケートの満足度について、生徒は変化が見られなかったが、保護者は1.1倍増であった。 ②国語、英語、家庭、商業で小テストを実施。 ③埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)者数は、2.1倍増となった。また、国家資格である「フラワー装飾技能検定」において、彩の国優秀技能者として県知事から3年連続で表彰を受けた。
		生徒一人一人の進路希望の100%の実現	①進学、就職希望者への効果的な面接指導、小論文指導を実施する。 ②第一希望での就職決定率。 ③第一希望での就職先の決定を進める。 ④進路ガイダンス、進路講演会、保護者進路説明会、インターンシップを充実する。 ⑤農業系、商業系大学等への進学を奨励する。	①進学、就職希望者の進路決定率。 ②第一希望での就職決定率。 ③生徒、保護者の進路指導に対する満足度。 ④農業系、商業系大学等進学者数。	計画的な指導により生徒一人一人の進路希望の実現を図ることができた。 ①進学希望者は、受験予定の生徒を除き、全員合格。学校を通じた就職希望者は、100%の内定である。 ②第一希望での就職決定率は75.3%となった。 ③進路講話、進路ガイダンス、進路説明会、インターンシップ等のきめ細やかな進路行事を行った。その結果、「進路行事が進路意識を高めている」と感じる保護者は、87%である。 ④農業系大学進学者1名、商業系大学進学者2名、埼玉県農業大進学者2名である。
2	創立99年を迎え、商業と農業を併設する伝統校として、地域との関わりは深く、「羽実(はじつ)」と呼ばれ、地域に根ざした教育活動を展開してきた。今後もさらに地域の期待や信頼に応えるよう、さまざまな機会をとらえて、地域連携、情報発信に努める必要がある。 また、地域の中学生の減少、生徒、保護者のニーズを踏まえ、本校の魅力をアピールし、専門学科に対する理解を深め、意欲のある目的意識の高い志願者を確保する必要がある。	地域関係機関との連携事業の推進	①商業・農業等の公開講座の実施。 ②商業・農業等の各種の地域との連携事業の実施。 ③県事業をととしての地域連携の実施。	①公開講座数と参加者の満足度。 ②円滑に各種の地域との連携事業を実施できたか。 ③参加生徒の満足度と連携事業を実施できたか。	地域関係機関との連携を円滑に推進することができた。 ①農業体験講座3回、高校生インストラクター講座1回、植物分類入門2回、小学生夏休み理科研究相談会2回を計画、実施し、ほぼすべての参加者が満足と回答した。 ②今年度も数多くの地域との連携事業を円滑に実施した。今年度は、新たにイス-1グランプリ、初山祭のボランティア、地元スーパーと開発した肉うどんの販売を実施した。 ③8県事業を円滑に実施した。次代を担う産業イノベーション事業等の参加生徒満足度は91.9%であった。特に今年度は新たに「夢と豊かな心をはぐくむ講演会事業」、「子ども70万人体験活動における高等学校体験活動に係る小学生とのスポーツ交流事業」、「高校生の「農力」育成強化プロジェクト」を実施した。
		情報発信の工夫と生徒募集定員の確保	①HPによる情報発信の回数や新たな取組を行う。 ②体験入学、学校説明会、中学校への出前授業を充実する。 ③中学校、塾訪問を実施する。 ④広報紙「羽実だより」の発行を効果的に行う。	①HPによる情報発信の新たな取組が出来たか。アクセス件数。 ②実施回数、体験入学や学校説明会等への参加者数。 ③訪問回数と中学校、塾の理解。 ④広報紙「羽実だより」の発行回数	生徒募集定員確保に向けて情報発信を実施することができた。 ①校長HPをはじめ、毎日更新している。 ②体験入学2回、学校説明会6回、出前授業4回実施予定である。 ③中学校訪問3回、塾訪問1回実施し本校のPRを図った。特に今年度は入学生の通っていた塾を把握し、効果的な塾訪問を実施した。 ④広報紙「羽実だより」の発行回数は、昨年度の1.2倍である。
3	本校は、目指す学校像「社会に有為な産業人を育成する」の下、地域産業を支える担い手の人材育成を行っている。そのため、生徒指導をとおして、規律ある態度を確立させ、社会が求める人格・人材育成を図る必要がある。 また、学校行事や部活動等の特別活動に取り組むことによって、主体性やコミュニケーション能力を育成することが大切である。	基本的生活習慣確立のための「羽実生規律アップ努力目標」の組織的、継続的な指導の実施	①組織的、継続的な整容指導、遅刻指導、校内美化を実施する。 ②自転車マナーアップ推進校として交通安全教育を実践し、交通事故減少を目指す。	①生徒・保護者の本校生活指導の満足度。 ①組織的、継続的な指導を実施することが出来たか。 ①生徒指導件数の比較。 ①遅刻者数の比較。 ②交通事故件数の比較。	基本的生活習慣の確立のための組織的で継続的な指導を進めることができた。 ①生徒・保護者の本校生活指導の満足度は、73%となっている。 ①生徒指導件数は減少はしていないが、多様な生徒に対応して、丁寧な指導に一つ一つに取り組んだ。また「羽実生規律アップ努力目標」達成のため、朝のSHR等を活用して組織的に取り組んでいる。 ①遅刻者数は昨年度よりも11.8%減となっている(12月21日現在)。 ②生徒による自転車交通安全伝達講習会を体育館で実施した。交通事故件数は、昨年よりも減少した(12月21日現在)。
		特別活動における生徒の主体性の促進	①生徒会活動の更なる活性化を目指す。 ②学校農業クラブ活動を充実する。 ③複数の部で県大会出場を目指す。	①生徒アンケートの積極的に学校行事に参加している生徒の比較。 ②学校農業クラブ県連事務局としての円滑な運営。 ③県大会出場部活動数。	積極的に学校行事やボランティア活動等に参加する多数の生徒がおり、主体性を育むことができた。 ①生徒アンケートの積極的に学校行事に参加している生徒は昨年よりも1.1倍増となった。 ②農業クラブ県連事務局の2年目として県連会長を中心に、滞りなく円滑に、各大会の運営を進めた。 ③ウエイトリフティング部がインターハイに3名、国体に2名出場した。また、県大会に陸上競技部7名、卓球部3名が出場した。農業クラブでは、全国高校生フラワーアレンジメントコンテストに9年連続出場した。

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 平成31年2月1日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
資格取得に力を入れ、生徒に目標を持たせ、自己肯定感を高めるような指導をお願いしたい。 今年度の進路実績は、生徒・保護者の期待に十分応えている。さらに、就農への道筋を具体的に示し、農業系大学や農業大進学者等に進学する生徒の増加を図って欲しい。 今後も生徒・保護者の授業、進路指導等への期待に応じて指導して欲しい。	「本校に入学してよかった」と答えている保護者は4年連続で9割超である。そして、子どもが「一年前に比べ、学校生活において努力したり頑張ったりしている」、「授業に意欲的に取り組んでいる」と答えている保護者は8割超、「学校行事に積極的に取り組んでいる」と答えている生徒は9割超である。資格取得でも、主体的に取り組む生徒が結果を残しており、教職員の日頃の丁寧な指導が生徒に伝わっている。今後もより一層の授業等の工夫を進め、生徒の授業満足度を上げていく必要がある。 進学希望者、就職希望者ともに、ほぼ全員の進路希望が達成された。「進路指導は生徒の希望や保護者の期待に応えている」と感じている保護者は8割超である。今後も進路希望の100%の実現を目指して、進路指導のより一層の充実を図っていきたい。
今年度も新たな地域連携事業を行い、積極的に生徒の活躍の機会を増やしている。「はじつ」として地域の高校として根差しており、生徒が地域を盛り上げてくれている。今後も地域連携を進めて欲しい。 中学生徒数減少で生徒募集の厳しい地域なので、成果を上げることは厳しいと思うが、学校のPRは進んでいる。全県的に農業系学科は生徒が集まっているが、商業系学科は集まっていない現実もあるが、商業系3学科のアピールをより進め、今よりも広い範囲で、粘り強く生徒募集を続けることが大切である。 そして、100周年に向けて、生徒等の意見・アイデアを集めて、特徴ある学校づくりを進める必要がある。	今年度も地域連携事業を円滑に進めることができ、多くの生徒が活躍した。今年度、新たに、イス-1グランプリ、初山祭でのイベントに参加し、大変好評であった。多くの生徒が、地域の方に声をかけていただき、達成感や使命感を得ることができ、学習意欲向上につながっている。 広報部を中心に、組織的な情報発信を効果的に進めることができた。中学生の減少の中、学校の魅力を伝える機会を増やすだけでなく、今後もきめ細かな対応に努め、志願者数の確保を進めていきたい。
組織的な巡回指導や立哨指導等を行っているため、遅刻者減少等の成果が現れ始めている。年々、学校は落ち着いてきている。今後も「羽実生規律アップ努力目標」達成のために、指導を継続することが重要である。 部活動では、ウエイトリフティング部、陸上競技部、卓球部、農業クラブの活躍など成果が上がっている。また、文化部の活動発表の場を増やして欲しい。今後も部活動やボランティア活動、特別活動等に取り組むことによって自尊感情や社会性を身につける指導を進めて欲しい。	今年度は「羽実生規律アップ努力目標」達成を目標として、組織的な指導を実施した。毎朝の校門や生徒玄関での立哨指導も定着してきた。そのため、遅刻者数が減少し、86%の生徒が「時間を守ることに努めている」と答えるなど成果が少しずつ表れ始めている。基本的生活習慣確立のためにさらに組織的な指導を継続する必要がある。また、「交通事故にあわない、起こさないように注意している」生徒が94%であり、事故ゼロを目指して、啓発活動を実施していきたい。 部活動等では、ウエイトリフティング部の活躍等が部活動の活性化につながり、陸上競技部、卓球部が県大会へ進んだ。ボランティア活動に自主的に参加する生徒が多数おり、今後も生徒の主体性を養う特別活動の充実を進めていきたい。